

特別展

天海、ここに顕現す！
寛文の不動明王立像

天海、ここに顕現す！



絹本着色慈眼大師（天海）画像（稲敷市指定文化財）

令和4年
2月18日（金）～
3月27日（日）

開館時間

9:00～17:00（入館は16:30まで）

休館日

月曜日、祝日（土日を除く）
2/24、3/22

入館無料

主催

稲敷市立歴史民俗資料館

〒300-0736

茨城県稲敷市八千石18-1

Tel 0299-79-3211

特別展講演会

事前申込。定員超過の場合抽選。受講者はマスク着用。

令和4年3月6日（日）14時00分～

稲敷市あずま生涯学習センター（定員250名）

演題 「不動院と天海僧正～絵画を中心に読み解く」

講師 佐伯英里子先生（多摩美術大学・中央大学工学部非常勤講師）

令和4年3月13日（日）14時00分～

稲敷市あずま生涯学習センター（定員250名）

演題 「史料から読み解く天海僧正～不動院時代を中心に」

講師 中川仁喜先生（大正大学准教授）



本尊 木造不動明王立像

題字 日光山輪王寺藏「栴月 三身藏 新成願寺」天海筆奥書より

同時開催 写真パネル展
「江戸崎土岐氏と鹿行地域」
畑田文書と鳥名木文書

特別展

常初江戸崎不動院

稲敷市の不動院は、文明の乱の頃、比叡山無動寺の幸誉法印が乱を逃れ、常州信太庄の靈地に不動明王を祀った事に始まる。江戸崎城主・土岐治英が土岐宗家を継いだ頃までには、古霞ヶ浦沿岸の天台宗談議所のひとつとして整えられ、天文の絹衣相論では後奈良天皇繪旨を得た。

土岐氏退転後の江戸崎城主・芦名盛重は、旧領会津黒川の稲荷堂別当・随風を不動院に招く。

文禄二年夏、日照りが続き民は飢饉に苦しみ、随風に雨を願った。随風が修法をしに入江に向かうと、一人の女が随風に五銖を与えて消えた。随風は請雨の法を修し、仏舍利を一粒竹葉に乗せ水面に浮かべると、水中より青蛇が現れ舍利をくわえて沈んだ。しばらくして黒雲が重なり、雷鳴轟き、稲光して大雨が降った。枯れた稲葉も色を変え、百穀実り人々は益々榮えた。

随風は天海と名を改めると、戦乱で荒廃した日の本と比叡山を復興するため、「現世安穩、後世善処」を掲げ、一步一步、歩を進めていった。

天海は、徳川家康を山王一実神道で東照大権現とし日光山に祀ると、かつて住持した不動院にも自筆の「南無東照三所大権現」の神号を与えた。江戸城の鬼門封じが東叡山寛永寺であり、そしてその遙か先に不動院が位置している。

不動院は、家康より一五〇石の御朱印地を、家綱より江戸城紅葉山仮御殿を賜り、不動堂、不動門、三社宮を建立する。寛保二年に天台宗の檀林寺となるが、宝暦一年町中の火災に一山類焼する。この復興が軌道に乗るかに見えた時、明治の廃仏毀釈と再度の一山焼失に遭い、不動院は多くの寺宝と境内地の殆どを失う。

今に遺る不動院の資料と関連寺院の資料を元に、天海を引き寄せた不動院の実像に迫る。



東叡山寛永寺蔵「慈眼大師縁起絵巻」より。画像 台東区教育委員会提供。



木造不動明王立像



仁王門



東照宮宝号

稲敷市立歴史民俗資料館

令和4年 2月18日(金)～3月27日(日) 入館無料

開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：毎月曜日・祝日（土・日を除く）・その他当館指定の休館日

〒300-0736 茨城県稲敷市八千石18-1 TEL. 0299-79-3211 FAX. 0299-79-3213

<http://www.city.inashiki.lg.jp/page/dir000985.html>

